

Vol.38

ORANGE

田辺市立美術館NEWS

田辺市立美術館へのきもち²⁸

今から30年くらい前にロンドンに留学していました。そのとき通っていた学校の近くにThe Saatchi Galleryという小さな美術館がありました。そこには、一般的にはあまり名前が知られていない新進気鋭の若手アーティストの作品が展示されており、学校帰りによく立ち寄り作品を眺め、活力を得ていました。ロンドンには、National GalleryやVictoria and Albert Museumなど、世界的にも有名な美術館や博物館がたくさんありましたが、一番通ったのは、学校が一番近いSaatchi Galleryでした。私自身は、美術に造詣が深いという訳ではありませんが、絵画を観ること、美術館自体を建造物として観ることに興味があります。それ故に、田辺市に市立美術館ができたときには、心躍ったことを覚えています。

私が勤務する田辺市立新庄第二小学校は、田辺市立美術館から一番近いところにある学校です。美術館が建つ田辺市たきない町24番43号は、本校の校区なのです。今、急速な少子高齢化や都市化、人間関係の希薄化などにより、地域社会の構造が大きく変化してきています。そのような中、学校、家庭、地域が目標やビジョンを共有し連携・協働することの必要性が叫ばれています。本校においても、田辺市が推進している学社融合の視点を取り入れた学校経営を実施しているところなのです。

本校が実施している学社融合の取組の一つに、「新二まつり」という学校行事があります。毎年11月に行われ、昨年、34回目の開催を迎えた伝統ある行事で、学校・保護者・地域の方が協働するよい機会となっています。新二まつりの目玉の一つに、地域から学ぶ親子体験があるのですが、コロナ禍になり、体験内容が制限されるようになりました。体験内容を見直していく中で、地域資源の一つである美術館を活用できないかと考え、以前より親交のあった学芸員の三谷さんに相談したところ、快諾していただき、令和3年度の新二まつりで、「体験、美術館！」と銘打った親子体験の講師を務めていただくことになりました。「体験」と銘打った

親子体験を実施するにあたり、参加した親子に美術館を感じてもらえるようにするためには、どのようなことができるのか、打ち合わせを重ね、試行錯誤した1回目でした。令和4年度は、新二まつりの日が特別展「稗田一穂展」の展示作業を行っている期間と重なるため、美術館から講師を派遣することが困難で「体験、美術館！」を開催するのが難しいのではないかとこのころから、打ち合わせが始まりました。しかし、程なく三谷さんから、「その状況を生かすという発想で体験活動を実施しましょう」との提案をいただきました。「参加者に美術館に来てもらって、展示作業中のバックヤードを学芸員の解説付きで見学してもらう」という企画で、参加者からは大好評の親子体験となりました。展示されている作品鑑賞は誰でもできますが、その舞台裏を解説付きで見ることができるというのは、田辺市立美術館を校区内にもつ本校ならではの、本当にプライスレスな体験でした。体験活動を終えた2年生児童がこんな作文を書きました。

親子体験活動で、美術館に行ってきました。わたしは、美術館といえば、絵がかざっていて、その絵は、そこにしかないものだと思っていました。でも、美術館の中に入ったら、ほかの美術館からかっている絵やびょうぶなどがあってあったので、とてもびっくりしました。今は、田辺出しんの「ひえだ かずほ」さんという画家の人が、きょ年百さいででなくなったので、その絵をかざっているのだそうです。十四さいから百さいまで、八十六年間絵をかいてきたことを知ってびっくりしました。ぜんぶずてきだけど、その絵の中でも、「花とうさぎ」が気に入りました。どうしてかというとうさぎの目がくりくりしてかわいかったからです。絵をみていると、きらきら光るところがあって、なにかなあと思っ

ていると、美術館の人が、「これは石をこなごなにして、はっているからきらきら光るんだよ」と教えてくれました。わたしは、「この日だけでも美術館のことをいっぱい知れた」と思います。また、ひらいたら行きたいです。そして、ほかの美術館にも行きたいです。

インターネットの普及により様々な名画をパソコンやスマートフォンの画面上で手軽に観ることができるようになりました。しかし、実物を観ることで得られる感動はひと味違います。美術館で実物に触れる魅力は、額装やライティング、展示されている部屋や建物など、周りの環境も含めて、作品を味わえることだと感じます。それぞれの作品と出会う順番にもストーリーがあり、美術館に足を運ぶことでしか得られない感覚があると思います。こんなにも近くに美術館があるのだから、子どもたちが足を運んで、本物の作品に触れる機会をできる限り作りたいと考えています。その作品に触れることで未来が変わる子どもがいるかもしれません。また、地域に美術館があることのおよさを実感することをとおして、地域を愛する心が深くなることも考えられます。今後も引き続き、美術館を学校教育における貴重な地域資源の一つと位置づけ、カリキュラム・マネジメントができればと考えています。



校門で登校を迎える筆者 (田辺市立新庄第二小学校 校長 中村 光伸)

絵画と出会う「この一点!」

戦後美術コレクション展

会場：田辺市立美術館

会期：2023年7月8日(土)～9月18日(月・祝)

難波田龍起(なんばた・たつおき/1905～97)は、洗練された構成と深い詩情をもった作品を描いて、戦後の日本の抽象絵画の世界を豊かにした画家の一人です。

1988年に制作された図版の《流》は、この時期に難波田がよく描いた横長の画面の水彩画で、ほうぼうへと動く線と暖かさをはらんだ青の色彩によって、水の流れが抽象的に表現されています。

静けさと詩情を湛えた画面は、時間の経過や心の移ろいまでも感じられる内容で、観るものを深い内面世界へと導いてくれます。

(学芸員 知野 季里穂)



難波田龍起《流》 1988(昭和63)年

田辺市立美術館蔵

編集後記

毎年4月発行のORANGEには、折込みの展覧会案内とスケジュールを掲載しています。切り取って折りたためばコンパクトに保管できます。休日のお楽しみのきっかけ、などになりましたら幸いです。皆様のご来館をお待ちしています。(F.O.)

田辺市立美術館NEWS

ORANGE

Vol.38

編集・発行：田辺市立美術館
発行年月日：令和5年4月1日

田辺市立美術館

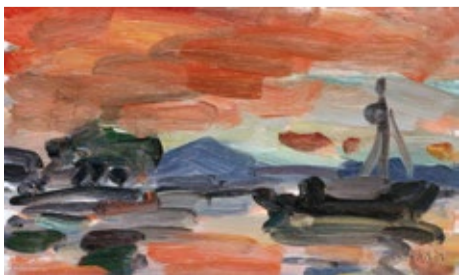
〒646-0015 和歌山県田辺市たきない町24-43
TEL.0739-24-3770 FAX.0739-24-3771
http://www.city.tanabe.lg.jp/bijutsukan/

田辺市立美術館分館 熊野古道なかへち美術館

〒646-1402 和歌山県田辺市中辺路町近露891
TEL.0739-65-0390 FAX.0739-65-0393
http://www.city.tanabe.lg.jp/nakahechibijutsukan/

2023年度展覧会案内

原勝四郎展



原勝四郎《網不知》 1942(昭和17)年頃 田辺市立美術館蔵

1. 小企画展 近代紀南の画家Ⅳ 青木梅岳

近代に紀南出身者で画家として活動した人物の軌跡を確認して紹介する展覧会シリーズの4回目。近代和歌山の南画界を牽引した青木梅岳(1866-1947)を取り上げます。

2. 館蔵品展 戦後美術コレクション展

当館のコレクションの中から、戦後の美術作品を特集して紹介します。

3. 特別展 原勝四郎展

田辺市出身の洋画家、原勝四郎(1886-1964)の画業を、当地の同時代の画家たちの交流とともに紹介し、回顧します。

4. 館蔵品展 近代洋画コレクション展

当館のコレクションの中から、近代の洋画を特集して紹介します。

5. 特別展 木村兼葎堂とその交友

大坂の木村兼葎堂(1736-1802)と、桑山玉洲(1746-99)や野呂介石(1747-1828)などの紀州を中心とした文人画家たちとの関わりに注目する特別展を開催します。

1. 特別展 妻木良三 侵食する風景

主に鉛筆を用いて原初的な風景を想起させる絵画を制作している、和歌山県湯浅町の美術家、妻木良三(1974-)の近年の作品を展覧します。

2. 開館25周年記念特別展 渡瀬凌雲と紀南

熊野古道なかへち美術館の開館25周年を記念して、田辺市中辺路町ゆかりの南画家、渡瀬凌雲(1904-80)の制作を、紀南との関わりに着目して紹介します。

3. 開館25周年記念特別展 野長瀬晩花と国画創作協会の画家たち

熊野古道なかへち美術館の開館25周年を記念して、田辺市中辺路町の出身で、大正期に日本画の表現を革新した国画創作協会の創立会員の一人として活躍した、野長瀬晩花(1889-1964)の制作を同会の画家たちの作品とともに振り返ります。

■くまびで作ろう!

講師のアーティストと参加者が一緒になって作品を作るワークショップ「くまびで作ろう!」の2回目。今回の講師は和歌山県湯浅町出身の陶芸家、橋本知成さん(1990-)です。作った作品は展示して、公開します。



野長瀬晩花と国画創作協会の画家たち

野長瀬晩花秋の草花 1921(大正10)年頃 田辺市立美術館蔵